

「防災教育・復興教育推進事業（いわての復興教育スクール）成果報告書」（陸前高田市立小友小学校）  
教育委員会名：陸前高田市教育委員会

I 取組の概要

1 事業の概要

- (1) 安心安全を育む防災教育
  - ア 復興状況を学ぶことによる安心安全
  - イ 訓練によって育まれる安心安全
  - エ 備えによって得られる安心安全
  - オ 地域と繋がることによる安心安全
- (2) 地域から学ぶ復興教育
  - ア 地域学習による郷土愛の育成
  - イ 地域と繋がることによる人材育成

2 事業内容

(1) 復興状況見学会【10月19日（水）】

- ア ねらい
  - ・被災から復興に進んでいる陸前高田市の現在の状況を知ること、いわての復興教育のねらいである「郷土を愛し、その復興・発展を支える人材育成」への一環とする。
- イ 見学場所
  - 「防潮堤」「奇跡の一本松」「今泉の高台」「炭の家」「市立博物館」
- ウ 対象児童と参加者
  - 3～6年生及び地域の方々

完成直前の防潮堤



今泉の高台造成地

(2) 年4回の避難訓練

- ア ねらい
  - ・万が一に備えて、自らの命を自ら守りぬく児童を育成する。
- イ 期日・内容
  - ①4月25日（月）※地震・津波
  - ※新しい避難所への遠距離移動訓練

地域の方々も参加してくださいました。



高台まで一気に駆け上がります。



②5月26日（木）※地震・津波  
※新しい避難所からの引き渡し訓練



たとえ保護者の方でも、必ず、目的地と安全を確認してから引き渡します。

③8月29日（月）※地震・津波  
※休み時間の抜き打ち訓練



一次避難場所での様子



訓練の様子を見守ってくださる地域の方々

④11月29日（火）※火災  
※校舎内を煙で充満させての避難訓練

(3) 地域学習と地域交流：全学年

- ア ねらい
  - ・小友町内の各種施設等を実際に訪問し、震災後の実情を理解するとともに、地域住民と交流することで、地域を愛する心を育む。
- イ 各学年の見学場所、実施内容等
  - 【1年生】「保小連携事業」
  - 【2年生】「なかよし まちたんけん」（生活）
  - 【3年生】「防災マップづくり」（総合・社会）
    - ・震災当時、実際に避難所となった所を回り、当時の様子をお聞きしました。また、現在の避難所に指定されている場所も回り、いざという時に自分が避難すべきところを確認しました。
  - 【4年生】「昔から現在・未来へ」（社会・総合）



ゲストティーチャーとして市立博物館長さんを何度も教室へお招きし、地震と津波、高田松原の歴史を勉強しました。また、3.11とその後の復興計画について、市役所の方から説明を受けました。

【5年生】「小友の産業調べ」（総合）

震災後、地域の産業再生に向けて努力する人々の思いにふれ、地域を大切にすることを育んでいます。

【震災で壊滅した牡蠣養殖の復活】 ↓



(6) スマイル集会

ア ねらい

- ・今年度の復興・防災教育を振り返って、学んだことや他の学年・地域の方々に伝えたい事を発表させ、学習のまとめとする。
- ・保護者や地域の方々に公開することで、子どもたちと地域との繋がりを一層深め、「てんでんこ」への安心感を育む。
- ・3. 11を迎えるにあたり、震災を語り継いでいく役目を自覚させ、小友を愛する心を醸成していく。

イ 日時 3月3日(金)3校時

ウ 内容

- ① 震災当時4年生の児童が、その一年後に書いた作文の発表（現在6年生の妹が代読）
- ② 全校児童を代表し、1名が発表



③ 各学年の発表



【1年生】  
そのとき、  
どうする！

【2年生】  
地域探検



【3年生】  
避難所めぐり

【4年生】  
高田松原と  
津波の歴史



【6年生】「伝承活動」（課外・総合）

- ・各地区公民館での郷土芸能の伝承活動
- ・3年生への田東剣舞伝承活動

(4) 親子防災体験教室【12月1日（木）】

ア ねらい

- ・親子で防災グッズを作成することで、日常の備えの重要性と防災に関する意識の向上を図る。

イ 作成した防災グッズ（体育館での親子制作）

- ① ゴミ袋を活用した「ビニールカップ」
- ② 停電時の灯りとなる「ツナ缶ランプ」
- ③ トイレットペーパーで作る「簡単マスク」



(5) 避難路掲示板の作成

ア ねらい

- ・6年生自らデザインを考え、親子で作成し、通学路に設置することで、日常的な安心感や、避難経路の把握、安全な登下校に結びつける。

イ 看板設置までの流れ

- ① 学級でグループ毎に構想立案（児童）\*総合
- ② 看板と杭に白地ペンキ塗り（児童）
- ③ 親子レク当日、下書きと色塗り（親子）
- ④ PTA奉仕作業の一環として設置





【5年生】  
復興する  
小友の産業



【6年生】  
復興状況  
見学会



【全校合唱】「明日の君へ」  
～つなげようぼくらの思い～

## (7) 防災教育推進委員会

### ア 設立の趣旨

大きな被災体験をした本校児童にとって、防災教育は、必要不可欠な学習活動である。また、本校は地域と深い結びつきがあることから、防災教育を進めていくうえで、地域の教材や人材の活用が効果的であると考える。地域から学ぶことを通して、郷土を愛する心を育むことができる。そのためにも、本校の防災教育の推進には、学校だけでなく地域の方々に参加していただき、地域全体で進めることが肝要である。

以上の考えに基づき、子どもたちの幸せな未来を願い、学校とPTA、地域が丸となって小友小学校の防災教育を進めていくために本委員会を設置する。

### イ 組織

- 委員長：PTA会長
- 副委員長：コミセン会長、  
民生児童委員協議会会長、校長
- 事務局：副校長
- 委員＝PTA：副会長（2名）  
コミセン：副会長（2名）、事務局長  
民生児童委員協議会：副会長、事務局長  
小友小学校：教務主任、安全担当

### ウ 活動内容

- ① 防災教育の計画・実施に関わること
  - ・地域教材活用のアドバイス
  - ・地域人材の推薦、外部講師の推薦
  - ・校外学習の支援
- ② 防災管理に関すること
  - ・避難路の安全確保
  - ・避難所の検討、避難体制の検討
  - ・備蓄体制の検討、市への要望など

本年度最後の委員会は、小友小学校防災教育の1年間のまとめである「スマイル集会」を全員で見学し、その後に、子どもたちの成長と感想を語り合いました。



## (8) 副読本の活用と価値を意識した授業

### ア 「県副読本」「市副読本」の効果的な活用

- ①防災教育年間プランの作成
- ②防災教育（復興教育）実施内容の作成

## (9) チューリップラインの作成

### ア ねらい

- ・校舎内の津波到達ラインを明示し、児童手作りのチューリップで視覚に訴えることで、震災津波の風化を防ぎ、語り継ぎに役立てる。

### イ 方法

- ① 5年生が1年生にチューリップの作り方を教えて、一緒に制作する。並行して、他の学年も、一人一人が教室で作成しておく。
- ② 全校児童が作成した作品を、校舎内に掲示する。



## II 取組の成果と課題

### 1 成果

- ・地域を知ることや地域との繋がりを深めた結果、児童の安全・安心感を支えることができています。それに加えて、地域を愛する児童の育成へと繋がることで、復興の担い手となる人材育成の一助となっている。
- ・地域の方々と共に震災を語り継いでいくことで、地域と学校が一緒になって子どもたちの命を守っていこうという雰囲気が醸成されている。

### 2 課題

- ・復興・防災教育に係る予算の裏付け
- ・持続可能な範囲での事業の継続
- ・「体験から学ぶ」から「歴史から・出来事から学ぶ」活動への転換
- ・中学校との連携を視野に入れた防災教育